

平成28年1月30日読売新聞朝刊の記事について

平成28年1月30日の読売新聞の朝刊第34面において、「病院は命を預かっている。切れ目なく電気が届かなくてはならない。再稼働で供給の安定性も高まる」との担当者コメントが記載されました。

本件については、「電力コストの削減についての当機構の対応」について申し入れがあり、1月22日に取材を受けたものであり、その際、原子力発電所の再稼働にかかる評価・コメントを求められましたが、その是非についてはコメントしておりません。

当機構としては、原子力発電所の再稼働を是とし、推奨するような立場にはなく、読売新聞に抗議を申し入れました。

当機構としては、医療機器の運用や空調、照明など欠かすことのできない電気の使用については、各病院において、エネルギー効率型の設備（LED電灯等）への更新や空調機等の運転時間の見直しなどの節電をはじめ、新電力の導入等の検討も行っているところです。

今後、電気料金の引き下げも予想されますが、引き続き、機構全体として節電やコスト削減に努めてまいります。

大阪府立病院機構
理事長 遠山正彌